

日本の 国花・国鳥・国樹・国魚・国蝶・国石は？

国花	日本には、法定の国花はなく、国民に広く親しまれている「桜」や皇室の家紋のモチーフである「菊」が事実上の国花として扱われています。 ということで「菊」と「桜」の2つです。
国鳥	1947年に日本鳥類学会が「雉(キジ)」を国鳥に選びました。 「キジ」は日本固有種で美しい留鳥で、民話や童話でもなじみがあり、オスは勇敢でメスは母性愛の象徴であるからとの理由からです。 「トキ」の学名(Nipponia nippon)がニッポニアニッポンなので日本を代表する鳥だと思ってしまうがちですが・・・ちなみに、今の1万円札は、鳳凰ですが、旧の1万円札の裏側は「キジ」が描かれています。
国樹	その国を代表するものとされている樹木。「国樹(こくじゅ)」と言います。カナダの場合は、サトウカエデです。国旗にも描かれています。 日本は、特に定めは、ありませんが、「桜」が国樹と書かれているものがあります。
国魚	「アユ」「フナ」「コイ」「ビワマス」「ホンモロコ」ではないのです。 正解は、「錦鯉(にしきごい)」です。(?) 全日本錦鯉振興会が2019年に企画・構成し 平和の象徴、日本の文化の象徴ともいわれる錦鯉が、日本発祥であることを確固たるものとするため、「国魚錦鯉」として制定されることを目標にPR用ポスターによる啓蒙活動を行い、錦鯉に対する意識の高揚を図ることを目的に作成いたしました。2019年には自民党内で「錦鯉文化産業振興議員連盟」が設立されるなど、正式に国魚に指定しようという動きが活発化している。 2021.1.17 全日本錦鯉振興会HPの記載
国蝶	「大紫(オオムラサキ)」が国蝶に指定されたのは、1957年の日本昆虫学会40周年記念大会です。日本を中心として、東アジアに分布していて、メスの大きさは世界最大級のタテハチョウの仲間に入ります。羽を広げると10センチ以上になる大型のタテハ蝶で、雄は羽の表側が美しい紫色に輝き、雌ではこの紫色の輝きがありません。
国石	「国石(こくせき)」とは、その国を代表・象徴する石(宝石)です。日本を代表する石、すなわち「国石」は、これまで正式に決められていませんでした。 2016(平成28)年9月24日、金沢大学で開かれた日本鉱物科学会の総会で「国石」の投票が行われ、翡翠(ヒスイ)が選ばれました。

雑学コーナー 『中国の国鳥選び』

日本はキジ、韓国はカササギ、アメリカは白頭ワシといったように、各国はその国を象徴する国鳥を決めています。といっても、すべての国に国鳥がいるわけではありません。

たとえば中国です。中国では2004年、国鳥を決めるために国家林業局と野生動物保護協会が大規模なインターネットアンケートを実施しました。その結果1位になったのは、長寿のシンボルとされるタンチョウ鶴。500万人中325万人が支持するという圧倒的な人気でした。しかし、これでスナリ国鳥決定とはならなかったのです。

よく調べてみると、タンチョウの学名が「グルス・ヤポネシア」。「日本の鶴」という意味だったからです。「こんな学名の鳥を中国の国鳥にしてはマズイだろう」ということで、第2候補のトキが浮上しますが、こちらの学名は「ニッポニア・ニッポン」。面子を大事にする国ですから、日本の国名が付いた鳥を選ぶことが出来ません。

国鳥選びは振り出しに戻ってしまいます。

そして、これらのボツ候補を除き、再びアンケート調査が行われました。今度1位になったのはそこらへんにいる平凡な鳥だったため、またも反対意見が噴出。結局、今も国鳥は決まっていません。ちなみにその一位はスズメだったようです。

